

関係各位

京都府病虫害防除所長  
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので送付します。

◇  
発生予察注意報第 4 号

作物名            水稻（中晩生）  
病虫害名        斑点米カメムシ類

- 1 発生地域        山城地域  
2 加害時期        出穂後収穫期まで  
3 発生量          平年比多い  
4 防除時期        穂揃期及び傾穂期  
5 注意報発令の根拠

- (1) 8月中旬に行った畦畔雑草すくい取り調査の結果、山城地域の確認地点率は 83.3%、平均虫数は46.3頭であり、平年比多かった（表1）。  
    主要な発生種は、アカスジカスミカメ（写真1）、アカヒゲホソミドリカスミカメ、ホソハリカメムシ、シラホシカメムシであった。特にアカスジカスミカメが多く捕獲された。今後、これらのカメムシ類が出穂後の水田に侵入することが懸念される。
- (2) 8月中旬に行った水田内のすくい取り調査の結果、山城地域の確認地点率は50.0%、平均虫数は1.2頭であり、平年比やや多かった（表1）。主要な発生種は、アカスジカスミカメ、ホソハリカメムシ、シラホシカメムシ、ミナミアオカメムシ（写真2及び3）であった。
- (3) アカヒゲホソミドリカスミカメの京田辺の予察灯への誘殺数（7月第1～8月第4半旬までの合計値）は、16.0頭（平年：12.9頭）と平年比やや多く、アカスジカスミカメでは2.0頭（平年：2.3頭）で平年並であった。
- (4) ミナミアオカメムシの京田辺の予察灯（20Wブラックライト）への誘殺数（平成23～25年までの年間合計値）は、近年増加している（図1）。



写真1 アカシガミカメ成虫



写真2 ミナミアカメ成虫

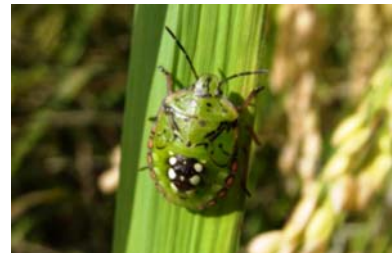


写真3 ミナミアカメ幼虫

表1 山城地域における斑点米カメムシ類の調査結果(8月中旬)

年	畦畔雑草20回すくい取り調査		本田20回すくい取り調査	
	確認地点率(%)	平均虫数(頭)	確認地点率(%)	平均虫数(頭)
26年	83.3	46.3	50.0	1.2
平年	63.4	9.9	24.8	0.7
25年	100.0	44.7	50.0	0.7
24年	66.7	14.5	33.3	0.3
23年	100.0	6.7	33.3	0.5
22年	100.0	19.7	16.7	0.2

平年：平成16～25年の平均値

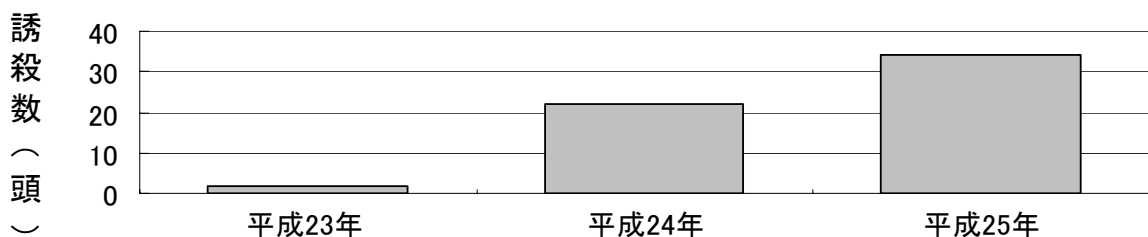


図1 ミナミアカメの予察灯（20Wブラックライト）への誘殺数（京田辺：4～11月の合計値）

## 6 防除上の留意事項

### (1) 耕種的防除

斑点米カメムシ類はイネ科雑草の種子を餌にする。したがって、水田周辺のカメムシ類の生息密度を下げるためには、畦畔の草刈りを必ず出穂の10日前までに済ませる。出穂期に近づきすぎてから行くと、かえってカメムシ類を水田に追い込み、逆効果となる。

### (2) 農薬による防除

カメムシ類の密度が高い水田では、薬剤による防除を穂揃期と傾穂期の2回行うことが望ましい。

農薬の散布に当たっては、普及センター、農協等と相談し、周辺作物に飛散しないよう使用基準を遵守して適正に使用する。

なお、最新の農薬情報は農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬登録情報検索システム」を参照のこと (<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html>)。

### (3) ミナミアカメの発生に注意

平成22年に、府内で初めてミナミアカメの発生を確認した。平成26年8月中旬現在、山城のイネと南丹のエダマメで発生を確認している。本種は、他の斑点米カメムシ類に比べて体が大きく吸汁量が多いため、少数でも被害が大きくなるので発生に注意する。